



発行: 公益財団法人国際労務管理財団 (I.P.M.) <http://www.ipm.or.jp/>
東京本部 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-26-6 新宿加藤ビルディング7F
TEL: 03-3354-4841(代) FAX: 03-3354-4847



目次



1	第7回送出し機関連絡会議のご報告
2	日越経済・人材育成交流フォーラム in 熊本開催のご報告
3	I.P.M.日本語作文コンクール結果のご報告
4	国際交流事業の紹介 外務大臣表彰を池田理事長が受賞 新事務所開設のお知らせ
	担当職員から
	編集後記

第7回送出し機関連絡会議のご報告

ベトナム ハノイ (5月10日) 及び東京 (6月19日) において、「第7回送出し機関連絡会議」を開催いたしました。ベトナムでは、送出し機関13社等から36名、東京では、ベトナム、中国、インドネシア、フィリピン、ミャンマー及びバングラデシュの6か国から大使館も含め、合計19機関、25名の参加を得ることができました。ここでは、開催の様子とともに、連絡会議の内容をご紹介します。

●会議内容

「技能実習法及び主務省令について」、「新たな外国人受け入れについて」、「建設キャリアアップ制度及び特定技能制度の運用状況について」の説明を行いました。

●5月10日 ハノイ

I.P.M. からの説明の他、この会議のために訪越していただいた建設業振興基金部長 土井直樹氏から、建設キャリアアップシステムの意義についてご説明をいただきました (制度の概要はI.P.M. の先月号に掲載がございます)。

●6月16日 東京

6か国の送出しの関係者が一堂に会し、各国の労働市場や政府機関の対応についての意見交換がなされました。特に新たな在留資格「特定技能」に関する質疑が多く、関心の高さが伺えました。全体的には多くの国の政府機関も特定技能の送出しについて、具体的な指示がないとのことでした。

●第7回送出し機関連絡会議を終えて

4月から6月の2カ月にかけて、中国、インドネシア、ベトナム及び東京と4カ所での会議を開催いたしました。特にインドネシアにおきましては財団として、初めての開催でしたが、送出し機関同士のつながりを持つきっかけになったと現地では大変歓迎をされました。

会議では、平素、業務提携をしていない送出し機関にも参加いただき、様々な意見のやり取りができました。特に、特定技能については、これまでの制度に守られた技能実習生とは異なるため、各国の政府も対応は、決して積極的ではありません。

日本は「特定技能」という新たな在留資格を創設しましたが、各国の政府の反応を見ますと、制度が定着するか否か、見極めにしばらく時間がかかりそうです。



東京での会議の様子



東京での懇親会の様子

日越経済・人材育成交流フォーラム in 熊本 開催のご報告

7月12日、日越経済・人材育成交流フォーラム in 熊本が開催されました。駐日ベトナム社会主義共和国大使館などとの共催で、I. P. M. などで構成する実行委員会が、熊本県、熊本市ほか22機関の後援を得て行ったものです。会場には、技能実習生受入やベトナムとの経済・人材育成交流に期待を寄せる関係者208名が参加し、成功裡に終えることができました。

■目的：日本とベトナムの経済・人材育成交流事業の発展を目指して、魅力あふれる熊本への外国人材の適正受入の実現及び県内企業のベトナム展開の推進を図るため、ヴー・ホン・ナム駐日ベトナム特命全権大使を特別ゲストにお迎えし、日越経済・人材育成交流事業及びその課題等について情報の共有を図り、交流を深める。

■主催：日越経済・人材育成交流フォーラム in 熊本実行委員会

■共催：駐日ベトナム社会主義共和国大使館 I. P. M. JIFA (株)グローバル・パートナーズ

■後援：熊本県 熊本市 など22機関

■概要：

◇来賓挨拶

熊本県副知事 小野泰輔氏

蒲島熊本県知事は、高校卒業後農協勤務を経て、農業研修生として渡米、ネブラスカ大及びハーバード大で学び、東大教授を経て、知事に就任されました。自身の農業研修の経験から「熊本にいられている実習生の皆さんにも、貴重な戦力として活躍して頂くのと同時に、夢を持って夢を叶えて、熊本に来てよかったなあと思って頂きたい」とお祝いのご挨拶を頂きました。



小野泰輔熊本県副知事

◇特別講演

「日越・人材交流の現状と課題」

駐日ベトナム特命全権大使 ヴー・ホン・ナム氏

400年前にベトナムを訪れた熊本出身の荒木宗太郎のご紹介や蒲島県知事の成功事例に大変憧れていること。「ベトナム人はHOPE（希望）を持って学び、日本で、日本の文化・習慣等を学んで、ベトナムの発展に貢献し、日本との友好関係の発展にも尽力します。熊本県とベトナムの関係が、くまモンを通じてさらに深まり、ほおずきのように、早く実のあるものになるように期待しています」とのお話を頂きました。



ヴー・ホン・ナム
駐日ベトナム特命全権大使

◇パネルディスカッション

テーマ：「魅力あふれる熊本への外国人材の適正な受入の実現に向けて」

●駐日ベトナム大使館 労働部長 ファン・ティエン・ホアン氏

●熊本県雇用労働創生課 課長 岡村郷司氏

●理事長 池田節子 ●専務理事 伊瀬洋昭

●コーディネーター：理事・熊本事務所所長 吉村郁也

また、会場から技能実習生のLE THI LINHさんなどからも発言をいただきました。



LE THI LINHさん

◇閉会挨拶

ホテル日航熊本 代表取締役社長 川崎博氏



ホアン労働部長 岡村課長



理事長 池田 専務理事 伊瀬



所長・理事 吉村



川崎代表取締役社長

I. P. M日本語作文コンクール結果のご報告

【最優秀賞】

東洋ワーク株式会社 下関営業所 LE THI HIENさん

【優秀賞】

株式会社武蔵野 神奈川工場 HO VAN PHUさん

【努力賞】

株式会社エヌチキン NGUYEN THI LAN THUさん

受賞された皆様、おめでとうございます。
ご応募いただいた方々、ありがとうございました。

受賞者作品の一部を紹介致します。※文字づかいは原文のまま掲載しております。

【最優秀賞】 時間を絶対に守る習慣

東洋ワーク株式会社 下関営業所 LE THI HIENさん

私が時間を守らなければならいきっかけがありました。それは、去年の忘年会に遅刻してしまったことです。私は遅れてはいけないと思いましたが、家を出る前はまだ時間があったので、ギリギリ間に合うと思っていました。しかし、家を出てバス停でバスを待っていると、来るはずのバスが来ません。「早くきてくれないと忘年会に遅れちゃう」と心の中で思っていると、5分遅れでバスが来ました。私は、バスの中で会社の人に電話しました。会社の人はとても怒っていました。私は会社の人々が怒っているので、とてもドキドキして忘年会の場所へ行きました。会場でも怒られるだろうと覚悟してました。でも会社の人々はあまり怒っていませんでした。会社の人々は、私が電話するのが遅かったせいで、「何かあったのかと、とても心配したよ」と言いました。私は、安心したと同時にとてもびっくりしました。ベトナムでは、みんながよく遅刻するので、少し遅れても心配することはありません。でも、日本は違います。その日から、私の考えはかわりました。遅刻はもちろんだめですが、仕事や約束にギリギリに行くのはやめようと決めました。

【優秀賞】 日本人のマナー

株式会社武蔵野 神奈川工場 HO VAN PHUさん

日本人は自分が悪くないのに、相手に「すみません」と言います。「すみません」という言葉に相手への気配りと思いやりが含まれているとわかりました。日本人は礼儀を大切にします。例えば、誘う時行けない場合や行きたくない場合でも「すみません、今日はちょっと」という風に言うんですが、ベトナムだったら「行かない」、とか「行きたくない」という風にはっきり言います。日本人の言い方は相手の気持ちも考えるので優しいと感じます。

【努力賞】 異国に居るという自覚

株式会社エヌチキン NGUYEN THI LAN THUさん

海外に行くこと、一人一人がその国の代表的なイメージになります。美しい事も悪い事も印象を残します。でも悪い事の方が良い事より長く覚えられてしまいます。自国のイメージを汚せず将来に信頼という宝を残すために自分に何が出来るかと自問した人はいったいどれくらいいるのでしょうか。私は「きれいな羊がたくさんいても、汚い羊が一匹でもいたらダメになる」と思います。これからも皆さんに信頼してもらうために、成長したいです

海外とのつながり

ベトナムフェスティバル開催

6月8日、9日、代々木公園にて第11回ベトナムフェスティバルが開催され、2日間で13万人の来場者を記録し、盛大な日越交流イベントとなりました。I. P. M. も出展をし、財団の活動の広報を致しました。最終日の夜までは、天候にも恵まれ、日本人はもちろんたくさんのベトナム人の方が訪れ日越の交流の場となりました。



日越人材育成交流フォーラムinハノイ

5月10日、日越人材育成交流フォーラムにI. P. M. も後援いたしました。342名もの方々にお集まりいただき、盛大に開催をすることができました。なお、当日の様子は、日本大使館HPにも紹介されました。

外務大臣表彰を池田理事長が受賞

7月23日、理事長池田が、令和元年外務大臣表彰（個人）の表彰式に招待されました。この表彰は、

「友好親善関係の増進に貢献してきた功績を讃え、その活動に対する一層の理解と支持を日本国民の各層にお願いするものです」とされており、会員企業の皆様のご支援の下、池田が、アジア諸国での教育・環境支援、技能実習や留学などの人材育成交流の適正化に取り組んできたことが評価されたものです。受賞のご報告とともに皆様へこれまでのご支援に改めてお礼申し上げます。



受賞式典後、河野外務大臣と理事長 池田

新事務所を開設しました

熊本市と札幌市に新事務所を開設いたしました。

【熊本事務所】〒860-0801

熊本県熊本市中央区安政町8-16 村瀬海運ビル203
TEL・FAX：096 - 288 - 2555

【札幌事務所】〒060-0032

北海道札幌市中央区北2条東1-3-3
札幌北2条サンマウンテンビル6階
TEL・FAX：011-206-0737

担当職員から

はじめまして。東京の野川翔子と申します。

現在、監理部と国際部に所属し、技能実習生・建設就労者の受入れ企業様への訪問指導や、生活面の各種支援業務と共に、各国送出し機関との連絡会議等各種イベント運営に携わっております。

前職は、小学校教員でした。そのような私がなぜI. P. M. へ入団したのか疑問を持たれる方も多いかと思います。私は小学校教員として国際協力機構

（JICA）の青年海外協力隊となり、大洋州にあるサモア独立国で子ども達へ算数・理科の教育と、現地教員に対して教授法の指導等を行っておりました。

そこで、子ども達が、学校へ通うことを辞めてしまう現実を多く目にしました。なぜなら、私の赴任先は都市部から離れた場所にあり、村人は現金収入のない自給自足の菜園生活をする以外、職業の選択肢がなく、多くの子ども達は、将来のために学校で学ぶということの重要性が理解できなかったからです。

私はそこで、将来の夢や人生の目標を持つことの大切さを強く感じました。そうした経験から途上国の青少年の自立支援や就労支援に興味を持つことになり、現在に至ります。

最近では新聞などで技能実習生の待遇の問題などが多く取り沙汰され、悲しい気持ちになることがあります。そのような中、いつも受入れ企業の皆様が実習生に対し優しく丁寧に指導して下さる様子を見て、感謝の気持ちでいっぱいになります。今後も受入れ企業の方や、実習生並びに就労者のみなさん両方が笑顔になれるよう、精一杯精進して参りたいと思います。

（東京本部 野川翔子）

編集後記

熊本と札幌に新たに事務所を開設し、実習生及び建設就労者、並びに企業様の支援にこれまで以上にしっかりと取り組んでまいります。何かございました際にはお気軽にご連絡ください。（横）